

【配置図】

【フロント・ガーデンゾーン】

メインエントランスへと導く主要なアクセス通路であり、地上公園から立体公園へつながる動線空間とします。地域の象徴である「ケヤキ」をはじめとした植栽を設け、人々が自然と立ち止まり、安らぎを感じられる潤いのある空間を創出します。

● 歴史と自然を感じる植栽計画

市の雑木林を象徴するケヤキ、コナラ、コブシ、サクラのほか、モミジやイチョウなど多様な樹種を植栽し、武蔵野の雑木林の景観の形成を図ります。

【賑わい創出ゾーン】

施設の顔となるエントランスホール、ギャラリーと多目的芝生広場を連携させることで、人々の活動を施設内外へと広げ、交流の核となる空間を創出します。

多目的
芝生広場

ポップ
ジェット
エリア

● 多目的芝生広場

イベント利用や防災時の物資搬入・避難場所、さらにキッチンカーの進入にも対応できる、大きくフラットな広場を計画します。災害時には、人々の安全を確保し、地域の活動を支える防災拠点として機能します。

● ポップジェットエリア

日常は子どもたちの遊び場として、夏季には噴水やミストを噴射し、水遊びができる空間とします。また、フラットな大型タイル敷き面を野外ステージとして、ミニコンサートや各種イベントに活用します。

志木駅からのアクセスを考慮し、北側の施設及びメインエントランスへ向かう動線を確保します。

● 1階屋上公園

地上から直接アクセスできる「寛ぎの庭」は、図書室、カフェ、学習スペースに隣接し、ゆったりとした時間が流れる庭園とします。

災害時には、下水管に直結したマンホールトイレとして利用できる計画としています。

● 2階屋上公園

空に近い場所で、思いっきり走ったり、跳ねたり、自由な遊びができる「冒険の庭」を設けます。



令和8年2月現在イメージ

【参考】コンセプト及び各階レイアウト図

※令和8年2月現在の各階における平面イメージであり、今後の基本設計で配置等を具体化する際に変更の可能性があります。

コンセプト 歴史を未来へつなぎ、にぎわいが豊かに咲く、共創の拠点

【1階：まちのリビング】

エントランスホール、ギャラリー、プレイルーム・地域子育て支援センターを配置します。公園と建物が一体となるよう設計することで、来館者を自然に迎え入れ、活発な交流やにぎわいを創出します。広場に面するギャラリーとエントランスホールは、開放的なデザインとし、大開口を開放する事で、ギャラリーとエントランスホールから多目的芝生広場までを一体とした、広く、賑やかな利用も可能とします。

【2階：知と創造の源流】

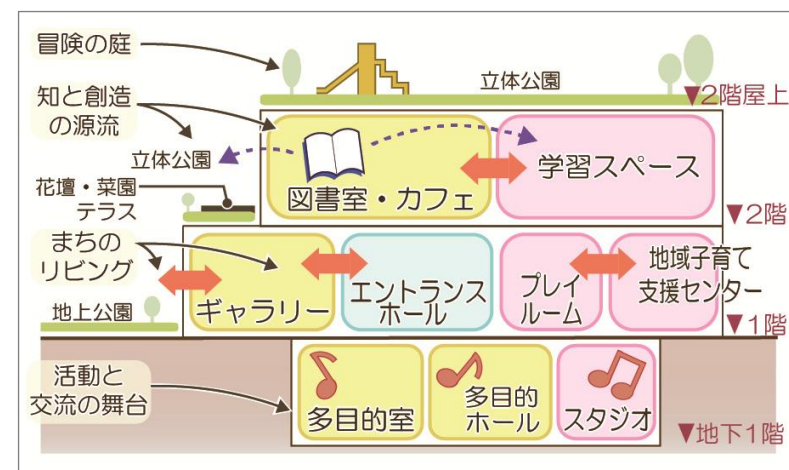
カフェと図書室、学習スペースを1階屋上公園と連携して配置することで、屋外で読書や学習ができる、新たな利用体験を創出します。カフェと連携したテラス席や、小さいながらも散策路(みどりの小路)を設ける等、建物の2階でありながら緑豊かな寛ぎの場とします。菜園や花壇を設け、市民との協働により花を育てたり、農作物を育成する活動を通じ、コミュニティ形成を促進します。

【地下1階：活動と交流の舞台】

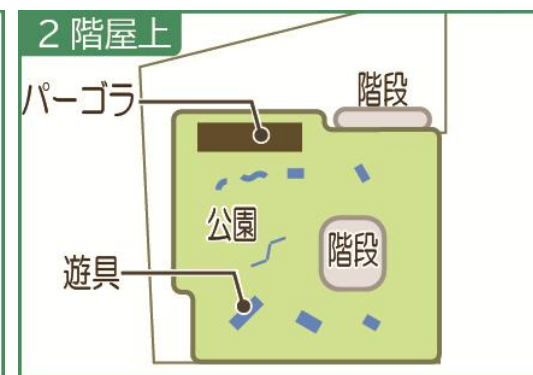
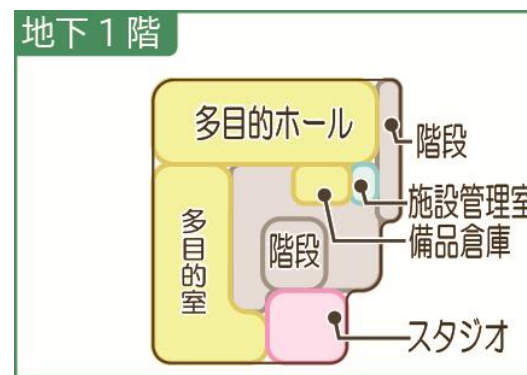
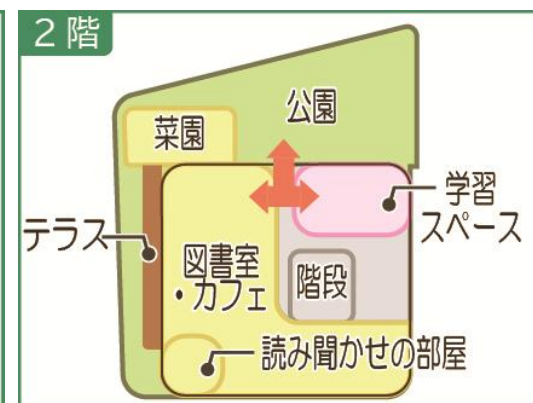
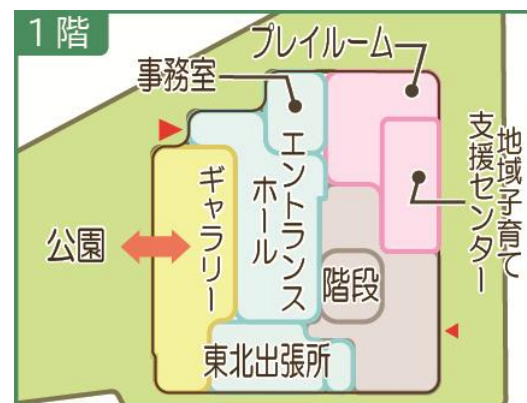
比較的にぎやかな利用が想定される多目的ホール、スタジオ、多目的室を地下に集約します。近隣をはじめ、施設内の他階へも影響がないように配慮した配置とし、利用者が音や声を気にせず活動できる環境とします。多目的室及び多目的ホールは可動式間仕切りにより、分割して利用することが可能で、多様な活動に対応できる計画とします。

【2階屋上（冒険の庭）】

地上から最も離れた空に近い場所に、子どもたちが安全に遊べる活動的な遊具を配置します。ユニークな遊具により、子どもたちの探究心と創造性を刺激する「冒険の庭」とします。日差しを避けられるパーゴラ付きベンチや、夏場の快適性を高めるミスト設備を設置し、子どもと保護者が安心して過ごせる空間を計画します。



【各階機能断面図】



- ：生涯学習
コミュニティ機能
- ：児童・青少年機能
- ：立体公園
- ：出張所・その他
- ：共有スペース
- ：一体利用

【各階の機能配置】

令和8年2月現在イメージ

【以下パース図】

令和8年2月現在イメージ



令和8年2月現在イメージ



令和8年2月現在イメージ



令和8年2月現在イメージ



令和8年2月現在イメージ



令和8年2月現在イメージ



令和8年2月現在イメージ



令和8年2月現在イメージ



令和8年2月現在イメージ

